

<GAP 普及大賞 2018>
豊田肥料株式会社が受賞！
「地域に根ざし培ってきた技術力を生かして進める
GAP 普及の取組」が評価されました。

一般財団法人日本 GAP 協会（代表理事専務：松井俊一）は、GAP 普及大賞 2018 の選考委員会を開催し、3 つの GAP 普及の優良事例を表彰することを決定しましたので、ご報告致します。

■GAP 普及大賞受賞事例：豊田肥料株式会社

豊田肥料株式会社は、静岡県袋井市を本社とする歴史ある肥料商として、地域に根ざし培ってきた技術力を生かし、ASIAGAP および JGAP の取得支援による経営改善と併せ、「GAP をする」ことを普及し、GAP の底辺拡大を行なっていることが、GAP 普及の好事例として高く評価されました。

創業 155 年となる豊田肥料株式会社は、昭和 30 年代より実地の栽培技術と土壌分析結果から施肥設計を提案し収量・品質向上を図ることで農家の収益改善に役立てる、地元密着型の活動を進めてきました。

この実績をもとに、2006 年からは、これまでの農業技術支援による秀品・増収への取り組みと併せ、「GAP を取る」、「GAP をする」ことにより農場の自己管理能力を高め、信頼のおける農場づくりを積極的に支援しています。現在まで ASIAGAP および JGAP の取得支援農場数は、県内外を合わせ団体認証取得支援実績 12 件（農場数 179 件）、個別認証取得実績 14 件、支援中 7 件、うち ASIAGAP Ver.1 が 6 件、Ver.2 が 4 件と多数に上っています。また、このような個別の指導に加え、2013 年には県内の農場による「ふじの国 JGAP 協議会」を立ち上げ、多数の講習会等も実施しており、地域に根ざした GAP 普及への貢献にはめざましいものがあります。これらの取組が GAP 普及大賞にふさわしいものと高く評価されました。

GAP 普及大賞は、一般財団法人日本 GAP 協会が主催する、今年一年間で最も GAP の普及に貢献した取り組み事例を表彰するものです。GAP 普及大賞 2018 の選考委員は次の通りです。

岩元明久（日本農業普及学会 副会長）、小池 甲（新潟県三条地域振興局農業振興部企画振興課 主査普及指導員）、田口光弘（農研機構中央農業研究センター農業経営研究領域 主任研究員）

この豊田肥料の取組に加え、下記の 2 事例が同時に受賞しました。いずれも甲乙付け難い GAP 普及の優良事例です。

—GAP 普及大賞— <受賞者>京丸園株式会社

—同 特別賞— <受賞者>福島県・福島県農業協同組合中央会

以上の 3 受賞事例について、下記のシンポジウム内で表彰式と受賞者による記念講演が行われます。ぜひご来場下さい。

■シンポジウム「GAP Japan 2018」

- ・日時：2018年10月3日（水） 13時から17時30分
- ・場所：東京大学 弥生講堂（東京都文京区弥生 1-1-1）
- ・関連ホームページ：<https://2018.jgap.asia/> ※参加申込を受付中です
- ・問合せ先：荻野（おぎの）TEL 03-5215-1112 FAX 03-5215-1113 E-mail: info@jgap.jp